

Timetable

セミナー配信スケジュール

OYOフェア2022
ONLINE EXHIBITION

10/12[水] & 10/13[木]	
招待講演 [各30分]	応用地質・グループ会社社員による講演 [各20分] 配信時間内にチャットによる質疑応答を実施します
13:00	
13:30	A 社会資本整備の意思決定と費用便益分析 E 洋上風力発電事業を成功に導く! 最新の海底地盤調査技術・サービスについて
14:00	F より高度な経済被害想定に向けて ～自然災害の活発化に対応した経済被害予測研究の最前線～
14:30	B 個別最適から全体最適へ ～DXに繋がる新たな姿勢を展望～ G 未来を創る、未来を守る OPxの取り組み
15:00	H 不動産投資市場でニーズの高まるサステナビリティ・ 自然災害に関する新たな調査レポートサービス ～不動産投資市場にむけた新サービス「サステナビリティレポート」の紹介～
15:30	C 脱炭素とサーキュラーエコノミーの内外の動向について ～環境でビジネスを見直す～ I 地中可視化とインフラの効率的な維持管理 ～地上・地下の情報インテグレーション～
16:00	J 脱炭素化社会の実現に向けた地域戦略を考える ～自然災害への取り組み実績を活かして～
16:30	D 自然資本/生物多様性と企業価値 ～投資家が求める自然関連財務情報開示 (TNFD)～



アーカイブ配信

10/14[金]～10/18[火]は、全セミナーのアーカイブ動画をいつでもご覧いただけます。
ご希望の方には受講証明書 (CPD) を発行します。セミナー視聴画面の案内をご確認ください。
なお、アーカイブ配信では、E～Jセミナーのチャット実施はありません。

Registration | 事前登録

ご参加いただく際は、以下のページより事前登録をお願いいたします。
※会期中は事前登録後すぐにご参加いただくことが可能です。

[OYOフェア2022] 特設WEBサイト

www.oyo.co.jp/exhibition-oyo-fair-2022/

9月上旬公開・事前登録受付開始予定



変化への適応力

Resilience

2022.10.12 WED - 10.18 TUE

参加無料 [事前登録制] | 会場：オンライン

| お問い合わせ先 | OYOフェア事務局
TEL: 03-5577-4501 E-mail: prosgight@oyonet.oyo.co.jp

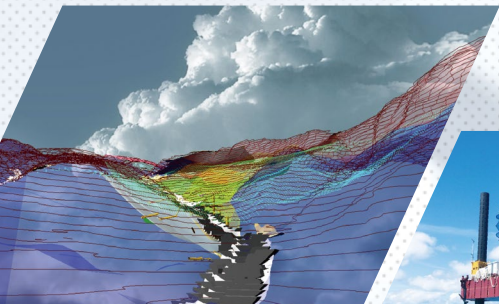


応用地質株式会社

変化への適応力 Resilience

急速な社会・環境の変化に適応した、 新たなレジリエンスを目指して。

気候変動の影響、自然災害の多発、そして感染症の拡大など、
この数年で私たちの社会は目まぐるしく変化し、これまで通用してきた
制度や技術、考え方などが、急速にその持続性を失いつつあります。
応用地質グループは、地球科学に基づく知見と技術、
そして先進的なDXへの取組みを通じて、未曾有の変化にもしなやかに
適応できる、地域・社会における新たなサステナビリティの創造に
挑戦しつづけています。是非、『OYOフェア2022』で、
新たなレジリエンスの方法論を体感してください。



Greeting

時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、平素より格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では来る10月12日(水)より、『OYOフェア2022』を開催する運びとなりましたのでご案内申し上げます。

今回も、昨年・一昨年に引き続き、「バーチャル空間」での開催となります。昨今、国土交通省が運営する「PLATEAU」や、3次元仮想空間「メタバース」、XR(クロスリアリティ)など、バーチャル空間の活用を切り開く技術やサービスが次々と生まれ、デジタルツインを基盤とする市場が急速に拡大しております。今年で49回目を数えるOYOフェアもまた、このような市場の変化を見据えながら、時間やフィジカルな空間に捕らわれず、お客様により有益で、価値のあるソリューションの提供を目指していく場へと変化していかなければなりません。

さて、私たちの社会は今、気候変動や自然災害の頻発化・激甚化、デジタル技術による経済・産業構造の変革、パンデミックによる社会意識・生活習慣の一変など、未曾有の変化の最中にあります。このような変化に適応していくため、デジタル技術を活用した経営の全面的な革新「DX(デジタルトランスフォーメーション)」や、温室効果ガスを発生させないグリーンエネルギーへの転換による産業構造・社会経済の変革「GX(グリーントランスフォーメーション)」といった取組みが急務となり、その動きは世界レベルで拡大しています。

弊社グループにおいても、DXを積極的に推進するとともに、持続可能な社会の構築に向けて、市場や社会の急速な変化に適応したDX/GXソリューションの開発に日々取り組んでおります。このような社会情勢や弊社グループの取組みを反映し、今回のOYOフェアのテーマは、『変化への適応力』と致しました。

『OYOフェア2022』はインターネットの環境さえあれば、会期中、いつでもどこでもログインし、セミナーやコンテンツをご覧いただくことができます。

皆様には、是非、ご都合の良い時間・場所でお気軽にご来場いただければ幸いです。

応用地質株式会社
代表取締役社長

成田 賢



Contents

展示内容

目まぐるしい変化と、その変化が予測しにくい時代にもしなやかに適応するために、応用地質グループの知見と技術、先進的なDXの取組みから生まれた製品・サービスによる新たなレジリエンスの方法論を、動画とミニセミナーを中心に紹介します。

スマートな 社会インフラの整備

公共施設の老朽化や少子高齢化、自然災害の増加...。これら社会インフラにまつわる様々な課題を解決するため、最新のデジタル技術や地盤3次元化技術を駆使したソリューションを開発しています。スマートなまちづくりを支援する最新技術やサービスを紹介します。



自然災害の被害軽減と レジリエントなまちづくり

気候変動に伴う豪雨・台風災害の増加や、地震・火山活動の活発化、さらには感染症の拡大など、私たちの社会は今、マルチハザードへの対応が求められています。自然災害に強い、強靱なまちづくりに貢献する最新の防災・減災ソリューションを紹介します。



脱炭素社会、 持続可能な循環型社会の形成

持続可能な社会の実現に向けて、再生可能エネルギーの開発や資源循環への取組みが加速しています。環境保全や廃棄物対策、防災・減災技術など、専門的知見と技術に基づく、独自の脱炭素・循環型社会構築の支援サービスを紹介します。



豊かな 自然共生社会の実現

地域にある自然資本を有効に利用し、経済活動と連動させながら、そこから得られる価値を地域に還元しつつ、生物多様性の向上にも寄与していく。建設と生物多様性の両立、地域への価値還元をめざした自然共生まちづくりの在り方を提案します。



応用地質グループの サステナビリティの取組み

急速な社会変化への適応をめざし、DXの推進により経営改革と新事業の創造を行うとともに、事業活動を通じて社会課題・環境課題の解決を目指す当社グループの取組みの一部を紹介します。



計測システム・ 情報サービス製品

気候変動等への適応を支援する『ハザードマッピングセンサ』など最新の防災IoT製品から、今後本格化するBIM/CIMへの対応支援および、業務の効率化・品質向上に寄与する各種地盤3次元化ツール／システム等を展示します。



アバターで巡る3D空間の展示会場

臨場感ある3D空間の展示会場を、アバターを操作していつでも自由にご覧いただけます。PCのブラウザ※でウェブサイトと同様に閲覧可能で専用アプリは必要ありません。アバターは、キーボードの矢印キーのみで操作が可能です。

※推奨環境: Microsoft Edge、Google Chrome 最新版



Seminar

セミナー

各界をリードする企業・団体のキーマンを講師としてお迎えし、
最新動向や今後の展望について解説いただくオンラインセミナーをご視聴いただけます。
応用地質グループの新たな取組みや他企業との協創事業についても紹介します。

■：招待講演

■：応用地質・グループ会社社員による講演

[10/12・13両日も配信時間内にチャットによる質疑応答を実施します]

A 招待講演 10/12[水]・13[木] 13:00-13:30

社会資本整備の意思決定と 費用便益分析

社会資本整備の意思決定手法の一つとしての費用便益分析は、必ずしも、その絶対的基準ではありません。本セミナーでは、費用便益分析が想定している社会資本整備の意思決定の前提を確認した後、それを補完すべき社会資本整備の意思決定手法について考察します。



小池 淳司 様
神戸大学 大学院工学研究科 教授

B 招待講演 10/12[水]・13[木] 14:00-14:30

個別最適から全体最適へ ～DXに繋がる新たな姿勢を展望～

土木分野では、ICT、DXなどが本格化していますが、事業、業務の取り組み姿勢では、旧態に留まらず、デジタル技術を活かす対応、挑戦が必要です。その際に有効と考えられる姿勢、視点は、個別最適から全体最適です。本セミナーでは、6つの姿勢を例示し、その意義、今後の展開を展望します。



常田 賢一 様
大阪大学 名誉教授

C 招待講演 10/12[水]・13[木] 15:00-15:30

脱炭素とサーキュラーエコノミーの 内外の動向について

～環協でビジネスを見直す～

エネルギー価格の高騰にもかかわらず、脱炭素の動きは国内外で大きく進展しており、また、製品のバリューチェーンを通じたサーキュラーエコノミーの動きもEUを中心に大きく動き出しています。これらは、ビジネスの変革を求めるものであり、大きなチャンスの到来をも意味しています。本セミナーでは、最新の動向について、その意味を共に考えてみたいと思います。



梶原 成元 様
公益財団法人 廃棄物・3R研究財団 理事長

D 招待講演 10/12[水]・13[木] 16:00-16:30

自然資本/生物多様性と 企業価値

～投資家が求める自然関連財務情報開示(TNFD)～

投資家や金融機関からの要請に応じ、気候変動が企業価値に与える影響について、TCFDに基づく情報開示を行う企業が増えています。本セミナーでは、新たに検討されている自然資本や生物多様性が企業価値に与える影響を開示する枠組みであるTNFD(自然関連財務情報開示)について解説します。



太田 珠美 様
株式会社大和総研 金融調査部 主任研究員

E 社員講演 10/12[水]・13[木] 13:00-13:20

洋上風力発電事業を成功に導く！ 最新の海底地盤調査技術・サービスについて

弊社は、洋上地盤調査のトップランナーとして、様々な技術開発を推進しています。本セミナーでは、特許やNETISに登録された新たな技術を紹介し、また、オーシャンエンジニアリングの最新機器、日本郵船株式会社・Fugro社との協業、NK審査への支援についても説明します。



田中 義浩
エネルギー事業部 事業企画部

G 社員講演 10/12[水]・13[木] 14:00-14:20

未来を創る、未来を守る OPxの取り組み

“OPx”は、弊社と株式会社バスコが協創した新しいリスク情報プラットフォームです。激甚化・頻発化する自然災害や多様化・複雑化する事件・事故など、現代社会では不確実性が増しています。本セミナーでは、様々な市場に対し、多彩なDXソリューション提供を目指す、リスク情報プラットフォームについて紹介します。



富田 正裕
情報システム事業部
ITコンサルタント部



奥野 守 様
株式会社バスコ
経営戦略本部 企画部

I 社員講演 10/12[水]・13[木] 15:00-15:20

地中可視化とインフラの効率的な維持管理 ～地上・地下の情報インテグレーション～

持続的社会的実現のため、インフラの維持管理は、官民ともに重要な施策となっています。弊社は日立製作所との協創事業「地中可視化サービス」を立ち上げ、高精度な3次元地中埋設物情報の提供を行っています。本セミナーでは、DX活用によるインフラ維持管理のトータルサービス・ソリューションの展開について説明します。



米澤 秀登
情報企画本部
地下埋設物調査プロジェクト室
株式会社 日立製作所
公共基盤ソリューション本部
社会インフラ保守事業推進センター



F 社員講演 10/12[水]・13[木] 13:30-13:50

より高度な経済被害想定に向けて ～自然災害の活発化に対応した経済被害予測研究の最前線～

社会・産業構造が高度に発達する中で、自然災害の激甚化・頻発化による経済損失の拡大が懸念されています。経済被害を事前に予測し、被害を軽減する方策を実践することで、日常生活への影響の最小化が可能になります。本セミナーでは自然災害の経済被害予測研究の最前線を紹介し、社会で活用する方法を説明します。



山崎 雅人
共創Lab

H 社員講演 10/12[水]・13[木] 14:30-14:50

不動産投資市場でニーズの高まるサステナビリティ・ 自然災害に関する新たな調査レポートサービス

～不動産投資市場にむけた新サービス「サステナビリティ・レポート」の紹介～

近年、企業のESG情報の開示など、“サステナビリティ”をキーワードにした活動が広がっています。今後、不動産投資市場においても、サステナビリティ・レポートの重要性が増すことが予想されます。本セミナーでは、不動産投資市場で求められる、サステナビリティを考慮した新たな不動産調査サービスについて紹介します。



望月 智也
株式会社イー・アール・エス エンジニアリング部

J 社員講演 10/12[水]・13[木] 15:30-15:50

脱炭素化社会の実現に向けた 地域戦略を考える

～自然災害への取組み実績を活かして～

近年、気候変動による災害の激甚化や地域紛争によるエネルギー問題が、持続可能な地域社会づくりに様々な影響を及ぼすことが懸念されています。脱炭素化社会の実現には、防災・減災対策と脱炭素化に対して同時に取り組むことが重要です。本セミナーでは、弊社が取り組む、最新のプロジェクトを紹介します。



塚本 真理佳
地球環境事業部 資源循環マネジメント部